

事業シート（概要説明書）

事業名	市民の健康と福祉のまちづくり推進事業		担当課名	健康増進課 高齢介護課 保険年金課		
事業年度	開始年度：平成5年度 終了年度：未定					
総合計画での位置付け	子育て支援と健康福祉の充実 誰もが健康で暮らせるまちづくり 健康づくりの推進 健康増進と疾病予防 子育て支援と健康福祉の充実 高齢者が生きがいをもって暮らせるまちづくり 高齢者福祉の推進 高齢者にやさしいまちづくりの推進					
根拠法令等	健康日本21、健康つやま21、津山市国民健康保険特定健康診査等実施計画 津山市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、等					
実施方法	直接実施	委託	指定管理	補助金	その他	
	実施主体・委託先等		市民の健康と福祉のまちづくり支部推進会議(44支部)			
事業概要	目的 (何のために)	自助・共助による健康づくりや福祉の向上を推進するため、地域が健康啓発や健康まつりの開催、高齢者世帯の訪問・見回りなどを行い、あわせてコミュニティの育成を図り、地域での安心できる生活を目指すもの。				
	対象 (誰・何を対象に)	地区住民				
	事業内容 (手段、手法など)	本事業では、健康まつりの開催など地域における健康啓発活動、高齢者世帯の訪問・見回りなどを行い、あわせてコミュニティの育成を図ること等について、市内44地区における「市民の健康と福祉のまちづくり支部推進会議」が事業の実施にあたる。支部推進会議は連町支部、民生委員地区代表、愛育委員支部代表、老人クラブ地区代表で構成されている。市においては、健康増進課、高齢介護課、保険年金課が「市民の健康と福祉のまちづくり支部推進会議」に委託し、事業を実施している。				
事業の必要性	まちづくり推進会議は、地域住民が健康と福祉に関する地域の課題に取り組むための活動を計画・審議するものであり、それらを具現化するために市が委託して、支部推進会議が事業を実施しているものである。本事業は、地域が公助に頼らず自助・共助を促す仕組みとして時代に適応しており、コミュニティの維持に一定の役割を果たし地域の安心につながっている。 しかしながら、地域をとりまく環境は年々少子化、高齢化が進展しており、本事業の必要性・重要性はさらに増してきている。					
		(円)	H20決算	H21決算	H22決算	H23予算
事業費	報酬(嘱託・臨時職員含む)					
	賃金					
	報償費					
	旅費					
	需用費					
	役務費					
	委託料	8,300,000	8,000,000	8,000,000	7,344,315	
	負担金、補助及び交付金					
	扶助費					
その他(会場使用料)	36,000	24,000	26,000	40,000		
合計	8,336,000	8,024,000	8,026,000	7,384,315		
事業費の財源内訳	国・県からの補助金等			2,000,000		
	地方債					
	その他(広告収入等)					
	一般財源	8,336,000	8,024,000	6,026,000	7,384,315	
合計	8,336,000	8,024,000	8,026,000	7,384,315		
人件費 (正規職員)	従事者数(平均給与75万円換算)	0.01	0.01	0.01	0.01	
	概算人件費	75,000	75,000	75,000	75,000	
総事業費(+)		8,411,000	8,099,000	8,101,000	7,459,315	

事業シート（概要説明書）					
事業目的達成のための活動指標	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
			別添		
単位あたりコスト					
<p><b>目指す成果</b> (今後どのようにしたいか)</p> <p>健康に関する活動については、まちづくりの様々な活動によって心身の健康を保持し、住民がいきいきと暮らす地域づくりを目指していきたい。国民健康保険の被保険者の保健課題に対応するためにも、本事業の活用は有効であり、さらなる事業推進に努めたい。</p> <p>福祉に関する活動については、今日、各地域の様々な福祉課題をいち早く発見し、課題が小さなうちに対応していくことのできる地域包括ケアシステムの構築が急がれており、地区社協の組織のない当市にとって本推進会議はその核となるべきものであると考える。</p> <p>本事業は、支部ごとに地域に適応した方法・内容で活動が行われている。実施内容が効果的であった活動については、「まちづくり交流会」を通して各支部に周知し、広く行われるようにしたい。</p>					
事業の自己評価	事業目的の達成状況	<p>支部組織においては、健康まつりやウォーキング、グラウンドゴルフなどの健康活動、高齢者宅の訪問や緊急避難先の確認などの活動が定着しつつあり、事業に取り組む体制はほぼできたと言えるが、今後さらに機動性ある体制とすることが必要である。</p>			
	今後の事業の方向性 (課題・改善計画等)	<p>担当する3課において、事業の効率などを検討し、より効果的な事業とするために若干の改正を行った。平成23年度が改正の初年度であり、これによる効果を見極めていきたい。</p> <p>ただ、過疎化や少子化、高齢化は急速に進みつつあり、本事業はますます必要な環境となってきている。これからさらに増大するであろう健康や福祉の諸課題を解決するためには、本事業を拡充していくことも検討・計画したい。</p>			
自己評価		<p>拡大・充実      現状のまま継続      効率化又は改善が必要      統合・縮小      廃止</p> <p>事業の効率化を図りながら、さらに拡充していくことが重要と認識している。</p>			
特記事項 (事業の沿革等) (他都市との比較等)		<p>平成4年度に「津山市民健康まちづくり運動推進構想」が策定され、従前よりあった津山市健康づくり推進協議会を発展させて市民の健康と福祉のまちづくりの組織を作ることが決定された。これにより、平成5年6月、「市民の健康と福祉のまちづくり推進会議」、及び下部組織として「市民の健康と福祉のまちづくり支部推進会議」が創設された。</p> <p>健康づくりの重要性がさらに社会の要請となっており、そのニーズに応えていかなければならない。</p>			